

社労士通信



Page. 02

社会保険労務士が組織を設計する時代へ

社会保険労務士法人 とうかい

久野 勝也様

Page. 04

士業であり続けながら、「士業」の思考から脱したサービスを目指す

寺田税理士・社会保険労務士事務所
寺田 慎也様

Page. 06

人事労務系 バックオフィス領域の 総合グループになりたい

柴垣 和也様
社会保険労務士法人 クラシコ

Other CONTENTS

- 08 「クラウド給与計算ソフト」って何？
- 10 クラウド給与計算導入企業の声
[土井電機株式会社／株式会社クリアーツ](#)
- 12 column 社会保険労務士のネット集客のコツ
- 13 column 安全配慮義務を果たすための留意点
- 14 社労士事務所様向けセミナーのご案内



interview 02

寺田税理士・ 社会保険労務士事務所

平成15年8月創業。税理士と社会保険労務士のダブルライセンスに加えて、労働保険事務組合も運営。“日本の中小企業に安心と元気を”を理念とし、社長から税務・労務・労災のリスク・不安を取り除くべく、日々支援している。

profile

寺田税理士・社会保険労務士事務所 代表

寺田 慎也様

平成21～28年の助成金需給実績総額は4億3千万円で大阪府下トップクラスを誇る事務所長。「税理士っぽくない」「社会保険労務士っぽくない」が最大の褒め言葉と語る、節税×労務×助成金の総合ディレクター。

66変化する時代の先頭集団 に立って自らの可能性を 創り出したい⁹⁹

Q. クラウド給与計算ソフトが社労士業界に与える影響について感じいらっしゃることを聞かせてください

ちょうど今朝の朝礼で話したばかりです。人工知能が絵を描き、作曲したというニュースを見て、人間の仕事を相当な範囲までカバーする時代が近づいてきているなど。これはつまり自分達の仕事を見直す時期になってきているということです。

当事務所は税理士と社会保険労務士のダブルライセンスで、両方の視点から経営者の方々に安心をご提供しています。社会保険業務は、専門家としての解釈よりも手続きの要素が大きいので、税務以上に早い段階でシステムに変わっていくのではないかという危機感を持っています。給与システムには、社会保険手続きに必要な固定情報がすべて入っていて、そこを引っ張ってきて手続きすれば簡単ですから。

Q. 時代の変化を実際に感じいらっしゃるんですね

そうですね。10年後くらいには、こんな感じなんじゃないかと思っています。個人の人が確定申告開始っていうボタンを押すと、人工知能のコンシェルジュが表示されて語りかけてくる。「今年も確定申告の時期になりました。集計によると売上や費用はこうなっていますがよろしいですか?」と。イエスかノーをクリックしていくと、税金計算結果が表示される。

さらに、コンシェルジュがデータベースから判例結果をあたってくれて、「〇〇はいくらまでなら承認される可能性があります」「〇〇はいくらを超えると否認される可能性があります」と言ってくれる。そんな風に、イエス・ノーボタンで進めていくと、申告ボタンを押せば終わってしまう時代です。

マイナンバーが始まりましたし、クレジットカードや銀行振込もオンライン決済できますからね。旧態依然、昔ながらで良いと足を踏ん張って抵抗するよりも、先頭集団として時代の流れに乗っていって、何ができる何ができないのか探りながら、自分達の可能性を創り出したいと思っています。

Q. 寺田様が今見出している可能性について
具体的に教えていただけますか

これまで顧問料で買っていただいている価値が“安心”だったとすると、“時間”という価値も加わったということですね。たとえば勤怠集計や給与代行。僕たちのようなアウトソーサーか、企業か、今までどちらの側で手間をかけるかということでしたが、このようなツールに任せれば僕たちと企業の双方に時間が生まれますよね。

その時間を使って、助成金の提案や、さらに言えば就業規則とい

う、やって良いこと悪いことをまとめる前にもっと大切な、従業員にとって働きやすい会社とはどういうものかについての協議もできます。クラウド型の業務ソフトが、「経営者に価値ある情報を提供する時間を作り出すツール」であるということです。

Q.なるほど。クラウド給与計算ソフトは時間を作り出すツールなんですね。それ以外にも寺田様がお感じになる可能性やメリットはございますか

そうですね、マーケットリーチの面でも可能性が広がっていると感じます。今までなら大きな事務所が対応していたような従業員規模の大きな企業の給与代行案件を、事務所の規模を飛び越えて請けていくきっかけにしたいですね。

クラウド給与計算ソフトは、ボタンひとつで勤怠ソフトと給与ソフトが連携したり、給与明細がWeb表示で印刷・手渡しが不要になったり、インストール型ではない便利な機能がありますよね。また、データがクラウド上にあるため、顧問先と事務所スタッフのどちらからも修正が可能で、同じ情報にアクセスできますから、顧問先の自計化を進める仕組みが整っています。

66 経営者と士業の関係は患者と医療のようなもの何でも相談できるプロに⁹⁹

Q.「価値ある情報」というお話をありがとうございましたが、寺田様の事務所だからこそ提供できる情報について教えてください

税理士と社会保険労務士のダブルライセンス、労働保険事務組合運営、10年前に事業承継をした経営実務家・実践家としての情報でしょうか。

社会保険労務士登録を行ったのは9年前、労働保険事務組合^{※1}の認可を取得したのは4年前です。これは、中小企業の経営者にワンストップでサービスを提供したいと思ったからです。経営者からしたら、経営相談しようにも、専門領域が分かれているためにそれぞれと顧問契約を結び、専門家間で連携してもらうにも労力がかかります。

たとえば、社会保険労務士は人事・労務と助成金申請を行いますが、試算表を見ていないので設備投資や新規事業展開に対する助成金の受給機会に気づけません。逆に、事業計画や財務状況を把握している税理士は、どんな助成金があるかを知りません。

僕はよく経営者と士業の関わりを患者と医療に例えます。患者からすれば、総合病院で全部診てもらいたいですよね。たらい回しせずに何でも相談できるプロであること、専門家としてのプロではなくて実践家としてのプロであることを目指しています。

※1 国の認可を受けて、事業主の代理人として労働保険に関する事務手続等や労働保険料納付を行うもの

66 士業であり続けながら、「士業」の思考から脱したサービスを目指す⁹⁹

Q.創業65年の歴史も強みとのことですが、事業承継についてお聞かせください

先々代が計理士^{※2}事務所として創業したのが始まりです。実は、先々代から先代、先代から僕、いずれも血縁関係がありません。受け継いだ歴史と顧客基盤、豊富な事案経験を守ることはもちろん、さらに成長させていきたいと思います。僕が継承した10年前はスタッフが6名程度でした。今では14名。5年後には年商5倍を目指しているので、スタッフが43名は必要だと考えています。

※2 公認会計士制度発足前の職業的会計専門家

Q.5年後に年商5倍、どんな道のりになりそうでしょうか

最初にも話しましたが、時代の流れが変わってきてるので、士業の枠にはまらないこと、「脱・士業」に取り組んでいくことが重要なと思っています。複雑な法律や手続きのプロというだけでなく、お客様の求めているものは何なのか、お客様にとって価値ある情報を届ける、というところにぶれずにフォーカスしていくべき、必ずその未来になっていると思います。

士業のワンストップサービスばかりでなく、セカンドオピニオンとして当事務所を使っていただくこともあります。事務所として常に新しいことに前向きに取り組んでいる姿、一人ひとりの職員がやりがいを持っている様子を感じてもらえば、それも価値ある情報のひとつになるでしょう。実務家・実践家としてメッセージできるように、自身も経営者として事務所を安定、成長させていきたいですね。

